

目も命

校長 武井 正明

まだ10月10日、目の愛護デーは先ですが、6月10日は「こどもの目の日」（6歳で視力1.0という願い）だそうなので今日のvisionは目についてです。

昨日も書きましたが、目が悪くなったのは小学校2年生。まあ押し入れでマンガの単行本ばかり読んでいましたから。でもやっぱりあの時の、お医者さんの思わず出た呟き「ダメだな…」はショックだった…。

そして3年生になってメガネ。今は小3でメガネなんて全然珍しくないけれど、当時はまだまだ珍しくて、背だけは高いから座席は後ろ。眼鏡を掛けると前列の奴らが興味津々に振り返って「あっメガネだ！」なんて、わざとらしく指さすわけです。何とも言えない気分だったなあ。

それに成長期って、眼鏡の度がどんどん進む。代えても代えてもすぐに合わなくなってくる。これがあの時の「ダメだな」と相まって、最後は本当に見えなくなるんじゃないかと不安になり、休み時間になると保健室のソファーに来て、母親が言っていた、「外の遠くの緑」を見るようにしていました。

視力検査が苦痛でした。「わかりません」「…タケイ君、もうちょっと前に出て」

それに対して周りが（うわっ、あいつ、あんなのも見えないんだ…）という憐れみとも冷やかしのつかない雰囲気になる。高校の時は、見える仲間に後ろに立ってもらって、背中を指でなぞって正解の向きを教えてもらい、0.3くらいでテキトーに帳尻を合わせていた。そうすると、もはや検査でも何でもなかった。

皆さんの目はどうですか？私と同じような悩みを持っている人がいたら、声を掛けてください。「同病相憐れむ」じゃないけれど、気持ち、わかりますから。

今はでも、いい時代になった。眼鏡も随分おしゃれになった。俺なんか最初は黒縁だもん。（「ガリ勉クン」なんてからかわれました）中学で銀縁にしたら、先輩が「お前に銀縁掛ける権利あんのか」だって。もう滅茶苦茶です。

そして今、私が密かに怖れているのは緑内障。白内障は手術で治りますが、これはもう多分逃げられないのでしょう。現状維持か、少しでも進行を遅らせるように、日々視野が狭くなっていないか注意して過ごしていくしかないのかなあ…。

先日、弟に言われました。「俺今、目薬やってるよ。兄貴も早めにやった方がいいよ。緑内障はどうにもならないからね」「怖いこと言うなあ…」

こういう話をすると「お互い年取ったなあ」なんて苦笑いです。

吉中の皆さん、歯も命、目も命。そして心身の健康が一番大事ですよ。昼休みの元気に遊ぶ君たちの姿を見ると、心配はなさそうですけどね。